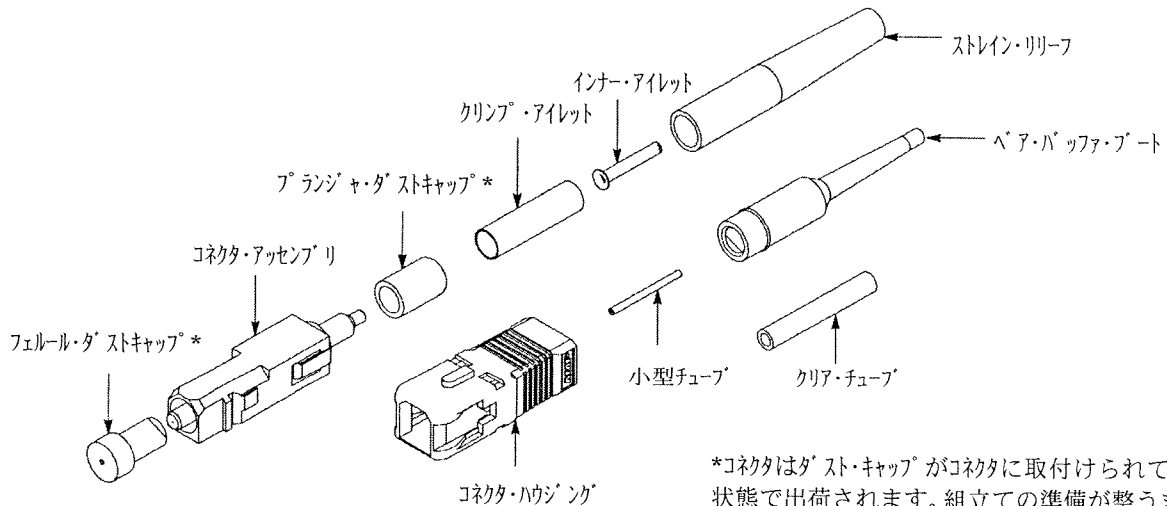


ライトクリンプ* プラス SC シンプルックス・コネクタ・キット 492643-[], 1278079-[], 1588291-[] 及び 1693276-1
LightCrimp* Plus SC Simplex Conn. Kits 492643-[], 1278079-[], 1588291-[] and 1693276-1

注意：この取扱説明書は、408-4471 Rev.E の日本語翻訳版です。オリジナルと同様に変更管理されており
ますが、オリジナルの Rev.が進んでいる場合は、オリジナルを優先使用して下さい。



*コネクタはダ・スタキャップ*がコネクタに取付けられている
状態で出荷されます。組立ての準備が整うまで、
ダ・スタキャップ*を定位置に取付けておいて下さい。

Fig.1

1. 概要

キット 492643-[](62.5/125 μ m)と 1278079-[](50/125 μ m)と 1588291-[](50/125 μ m)は、125- μ m マルチモード・ガラス光ファイバーケーブル用に設計されています。キット 1693276-1 は、250- μ m シングルモードファイバー用に設計されています。これらキットの全ては、どこに使用するか指示される場合を除いて、下記のメディアのどれと一緒にでも使用することが出来ます。

- 5.1. 900- μ mベア・バッファード・ファイバー
- 5.2. 250- μ mコーティッド・ファイバー
- 5.3. 2.5~3.0mmジャケット・ケーブル
マルチモード・ファイバーのみ使用。シングルモードファイバーは使用しないで下さい。
- 5.4. 900- μ mバッファード・ブレイクアウト・キット
- 5.5. 900- μ mイーザー・ストリップ又はセミタイト・バッファード・ファイバー

具体的な組立手順については、それぞれの項を参照して下さい。
コネクタ・キットのアセンブリの前に取扱説明書を良く読んで下さい。

注記：この取扱説明書の寸法はメートル単位です。

本書の改訂履歴については、6章、改訂履歴に記述してあります。

2. 説明 (Fig.1 参照)

各コネクタ・キットはコネクタ・ハウジング、コネクタ・アッセンブリ、ストレイン・リリーフ、インナー・アイレット、クリンピング・アイレット及びクリア・チューブで構成されています。各キットにはベア・バッファ・ブーツと小型チューブが備わっており、後者は直径の小さなケーブルの補正に使用します。さらにコネクタに取付けられている、フェルール(コネクタの前面)とプランジャ(コネクタの後部)用のダストキャップも含まれています。

3. 安全上の注意

危険： 身体の損傷を防ぐため、光ファイバーを取扱っている最中は必ず目の保護具(安全眼鏡)を着用して下さい。結線された又は結線されていないファイバーの端部を決して覗き込まないようにして下さい。レーザー光は目に見えませんが、目の組織を傷つける恐れがあります。ファイバーを取扱う際には、飲食や喫煙は避けて下さい。ガラスの破片を吸い込む恐れがあります。

危険： 切断したファイバーの処理には十分注意して下さい。肌に刺さりやすく炎症を引き起こす原因になります。

注記： 損傷したコンポーネントは使用しないで下さい。必ず新しいコンポーネントを取付けて下さい。

4. 組立に必要な工具と材料

- 光ファイバー・コンビネーション・ストリップツール 1278947-1
- はさみ 501014-1
- ケーブル・ホルダー・アッセンブリ 1278023-1
- クリーブツール 492674-1
- プロクリンパ*ハンドツール・アッセンブリ 492782-1
- アルコール・ファイバー・ワイプ・バケット 501857-2

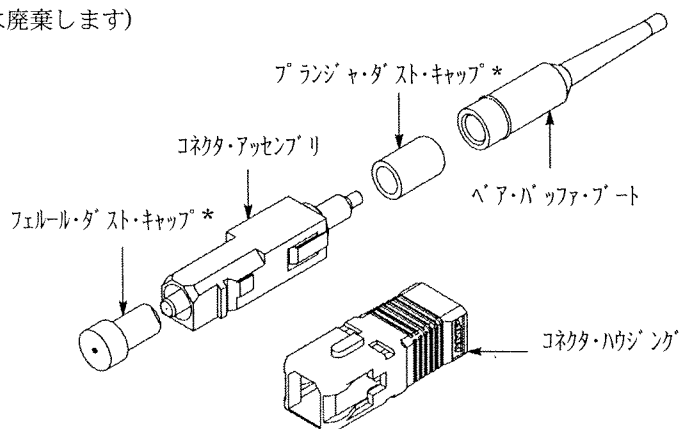
注記： 上記の工具/材料は、ライトクリンプ・プラス・ターミネーション・キット 1278022-1 又は、1278118-1 に含まれています。

- イソプロピル・アルコール

5. 組立手順

5.1. 900- μ mベア・バッファード・ファイバー

必要となるキット・コンポーネント
(他のコンポーネントは廃棄します)



*コネクタはダスト・キャップがコネクタに取付けられている状態で出荷されます。組立での準備が整うまで、ダスト・キャップを定位置に取付けておいて下さい。

A. 900- μ mベア・バッファード・ファイバーの準備(Fig.2)

1. バッファ上にベア・バッファ・ブート(直径の小さい端から)を挿入します。Fig.2、詳細 A を参照して下さい。
2. コネクタ・アッセンブリから両方のダストキャップを取り外します。フェルール・ダストキャップは保管して置き、プランジャ・ダストキャップは破棄します。
3. フェルールが外側に向くように、ケーブル・ホルダー上のホルダーにコネクタを押込みます。コネクタがケーブル・ホルダーのアームの溝の奥まで押し付けられていることを確認して下さい。ケーブル・ホルダーの「BUFFER」と記された溝にファイバーを挿入します。バッファの先が溝の端部に接していることを確認して下さい。Fig. 2、詳細 C を参照して下さい。
4. 溝の各クロススロットの位置でバッファにマークをつけます。Fig. 2、詳細 C を参照して下さい。ケーブル・ホルダーからバッファを取外して下さい。
5. コンビネーション・ファイバー・ストリッパーを使用して、ファイバーを1つ目のマークまで剥がします。ファイバーに対して一定の角度でストリッパーを持ち、3回に分けて剥がすことをお勧めします。Fig. 2、詳細 D を参照して下さい。残っているコーティングを取り除くため、アルコール・ファイバー・ワイプでファイバーをクリーニングして下さい。

注意：ファイバー・ストリッパーを使用する前に、「V」の開口部が清潔であることを確認して下さい。清潔な状態でないとファイバーが破損する恐れがあります。工具清掃にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

B. 切断(Fig.3)

注記：ファイバーへの損傷を避ける為、クリーブツールの刃、及び刃の周辺部分が清潔であることを確認します。ツールの清掃にはアルコールのみ使用して下さい。

軽く押さえるだけで切断刃が滑らかに上下することを確認して下さい。必要に応じてアルコールで清掃して下さい。

1. ツールのレバーを押しクランプを開いて、舌部の溝にファイバーを配置します。この時バッファの始端がスケール・マークの8mm(± 0.5 mm)の位置にある状態にします。Fig.3、詳細を A 参照して下さい。
2. ファイバーをそのまま保持し、レバーを放してファイバーを固定します。工具の舌部が平坦であることを確認してから、工具のアームを静かに押し下げ、ファイバーに印(線を刻む)を付けます。アームを放します。Fig.3、詳細 B を参考して下さい。

注意：ファイバーへの損傷を避けるため、アームを押し下げる時には、過度の圧力を加えないで下さい。刃の縁がファイバーに触れる程度で留めておきます。

3. ファイバーをそのまま保持し、舌部をねじれないようにゆっくりと曲げ、ファイバーを切断します。Fig.3、詳細 C を参照して下さい。汚れるのを防ぐため、切断したファイバーの端部には触れないようにします。切断したファイバーの端部はクリーニングしないで下さい。

注意：ツールの舌部への損傷を避けるため、舌部を45°以上曲げないで下さい。

注記：切断刃の寿命は1000回です。型番1278219-1と取替えて使用して下さい。

C. 圧着(Fig.4と5)

1. ケーブル・ホルダー・アッセンブリのケーブル・クランプを開き、クランプの内側にバッファを置きます。(切断された端部がコネクタ側に向いた状態)。ケーブル・ホルダー・アッセンブリのアームの前部が、ファイバーの端部と平行になるようにバッファを動かして、バッファを保持したままクランプを閉じます。Fig.4、詳細 A を参照して下さい。

- ファイバーが内部で突き当たるまで、注意してコネクタ・アッセンブリのプランジャに挿入します。バッファの残りのマークが、確実にプランジャに入るようにします。(マークがプランジャに入らない場合、ファイバーを再度剥がす必要があります)バッファが湾曲することにより(その反発力で)、挿入されたファイバーの端面が、内部のファイバーの端面に押し付けられます。Fig.4、詳細 B を参照して下さい。

注記：ファイバーが内部で突き当たり、そのまま保持されることが重要です。マークがプランジャに入らなかったり、ファイバーが内部のファイバーに突き当たらなかったりしたら、インターナル・ガイドに引っ掛けている可能性があります。コネクタを回転させ、ファイバーを少しでも引き出し再度押し込んでみて下さい。

圧着作業中ファイバーが引っ張られて、突き当たった面が離れないように気をつけて下さい。

- 先ずハンドツールのハンドルを締めて、ラチェットを解除します。ハンドルを全開にし、ラチェットのカチッという音が2回聞こえるまで、ゆっくりと工具のハンドルを締めます。
- コネクタ・アッセンブリをケーブル・ホルダー・アッセンブリに留めたまま、フロント・ダイの上部くぼみにフェルールが、リア・ダイの上部くぼみにプランジャがくるようにします。Fig.4、詳細 C を参照して下さい。

注意：フロント・ダイに記された矢印は、コネクタがそのくぼみに配置された時、フェルールが向く方向を示しています。正しく配置し、ファイバーへの損傷を避けるため、矢印の方向を守る必要があります。Fig.4、詳細 C 及び Fig.5、詳細 A を参照して下さい。

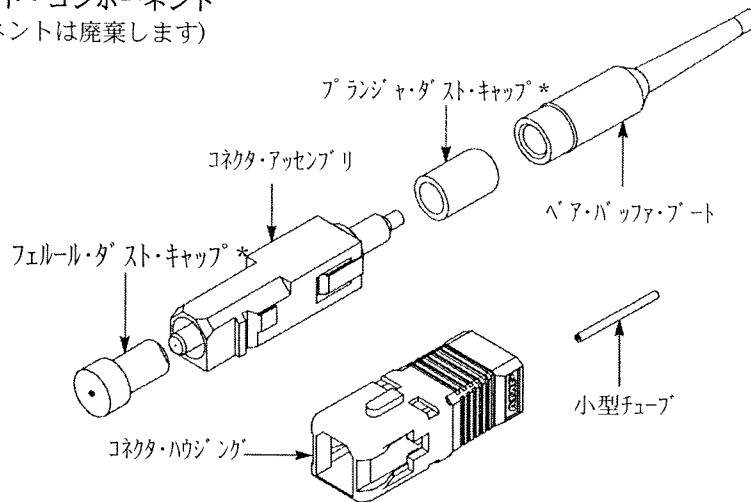
- コネクタ・アッセンブリに向けてバッファを静かに押し、ファイバーがしっかりと突き当たっていることを確認してから、ラチェットが外れるまで工具のハンドルをゆっくりと締めます。ハンドルを全開にし、コネクタをダイから取外します。
- コネクタ・アッセンブリのプランジャを、フロント・ダイの1つ目の(最も小さい)くぼみに配置します。この時、こぶがダイの溝の端部に接し、フェルールが矢印の方向を向いている必要があります。Fig.5、詳細 A を参照して下さい。
- 工具のハンドルを同時にゆっくりとラチェットが解除するまで握ります。ハンドルを全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
- ダスト・キャップをフェルールに取付けます。ケーブル・ホルダー上のケーブルクランプを開き、クランプからバッファを取外します。ベア・バッファブートをスライドさせて、プランジャに嵌めます。Fig.5、詳細 B を参照して下さい。
- ケーブル・ホルダー・アッセンブリからコネクタ・アッセンブリを取外します。
- コネクタ・ハウジングのキーをコネクタ・アッセンブリの面取り面に合わせ、定位置にパチンと嵌まるまでハウジングの中にアッセンブリを押し込みます。Fig.5、詳細 C を参照して下さい。

注記：これらのコンポーネントは1方向でのみ嵌め合うようにできています。無理に嵌めようとしないで下さい。

900 μ m のベア・バッファード・ファイバーの組立手順はこれで完了です。

5.2. 250- μ m コーティッド・ファイバー

必要となるキット・コンポーネント
(他のコンポーネントは廃棄します)



*コネクタはダスト・キャップがコネクタに取付けられている状態で出荷されます。
組立ての準備が整うまで、ダスト・キャップを定位置に取付けておいて下さい。

A. 250- μ m コーティッド・ファイバーの準備(Fig.2)

1. ファイバー上にベア・バッファ・ブーツ(直径の小さい端を最初に)を挿入します。Fig. 2、詳細 A を参照して下さい。
2. コネクタ・アセンブリのからダスト・キャップを両方も取外します。フェール・ダスト・キャップは保管しておき、プランジャ・ダスト・キャップは廃棄します。
3. 小型チューブ(白)をコネクタ・アセンブリのプランジャに挿入し、チューブが突き当たるようにします。Fig. 2、詳細 B を参照して下さい。
4. フェールが外側に向くように、ケーブル・ホルダー・アセンブリのホルダーにコネクタ・アセンブリを押込みます。コネクタがケーブル・ホルダー・アセンブリのアームの溝の奥まで押し付けられていることを確認します。ケーブル・ホルダーの「BUFFER」と記された溝にファイバーを挿入します。ファイバーの先が溝の端部に接していることを確認します。Fig 2、詳細 B を参照して下さい。
5. 溝の各クロス・スロットの位置でファイバーにマークを付けます。Fig. 2、詳細 B を参照して下さい。ケーブル・ホルダー・アセンブリからファイバーを取外します。
6. ストリップツールを使用して、ファイバーを 1 つ目のマークまで剥がします。ファイバーに対して一定の角度でストリップツールを持ち、3 回にわけて剥がすことをお勧めします。Fig. 2、詳細 C を参照して下さい。残っているファイバー・バッファの残留物を取り除くため、アルコール・ファイバー・ワイプでファイバーをクリーニングして下さい。

注意：ストリップツールを使用する前に、「V」の開口部が清潔であることを確認して下さい。清潔な状態でないと、ファイバーが破損する恐れがあります。工具にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

B. 切断(Fig.3)

注記：ファイバーへの損傷を避けるため、クリーブツールの刃及び刃の周辺部分が清潔であることを確認して下さい。ツールの清掃にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

軽く押さえるだけで切断刃が滑らかに上下することを確認して下さい。必要に応じてイソプロピル・アルコールで清掃して下さい。

1. クリーブツールのレバーを押し、クランプを開きます。舌部の溝にファイバーを配置しますが、この時ファイバー・コーティングの始端がスケール・マークの 8mm(±0.5mm)の位置にある状態にします。Fig.3、詳細 A 参照して下さい。
2. ファイバーをそのまま保持し、レバーを放してファイバーを固定します。クリーブツールを Fig.3、詳細 B のように保持して下さい。工具の舌部が平坦であることを確認し、工具のアームを静かに押し下げ、ファイバーに印(線を刻む)を付けます。刃の縁がファイバーに触れる程度で留めておきます。アームを放します。

注意：ファイバーへの損傷を避けるため、アームを押し下げる時には、過度の圧力を加えないで下さい。

3. ファイバーをそのまま保持し、舌部をねじれないようにゆっくりと曲げ、ファイバーを切断します。Fig.3、詳細 C を参照して下さい。汚れるのを防ぐため、切断したファイバーの端部には触れないようにします。切断したファイバーの端部はクリーニングしないで下さい。

注意：ツールの舌部への損傷を避けるため、舌部を 45° 以上曲げないで下さい。

注記：切断刃の寿命は 1000 回です。型番 1278219-1 と取替えて使用して下さい。

C. 圧着(Fig.4 と 5)

1. ケーブル・ホルダー・アッセンブリのケーブル・クランプを開き、クランプの内側にファイバーを入れます。(切断された端部がコネクタ側に向いた状態)。ケーブル・ホルダー・アッセンブリのアームの前端と平行になるようファイバーの端部を引き、ファイバーを保持したままクランプを閉じます。Fig. 4、詳細 A を参照して下さい。
2. ファイバーが内部で突き当たるまで、注意してコネクタ・アッセンブリのプランジャに挿入します。ファイバーの残りのマークが確実にプランジャに入るようにします(マークがプランジャに入らない場合、ファイバーを再度剥がす必要があります)。ファイバーが湾曲することにより(その反発力で)、挿入されたファイバーの端面が内部のファイバーの端面に押し付けられます。Fig. 4、詳細 B を参照して下さい。

又、ファイバー・コーティングは、5.2.A 項、ステップ 3 でコネクタ・アッセンブリの後部(プランジャ)に押し込んだ小型チューブの中を通すようにして下さい。先端が小型チューブの奥まで入るようにして下さい。

ファイバー・コーティングの始まりが、小型チューブの挿入口に引っかからないようにして下さい。

注記：ファイバーが内部で突き当たり、そのまま保持されることが重要です。

マークがプランジャに入らなかったり、ファイバーが内部のファイバーに突き当たらなかったりしたら、インターナル・ガイドに引っ掛っている可能性があります。コネクタを回転させ、ファイバーを少しだけ引き出し再度押し込んでみて下さい。

圧着作業中ファイバーが引っ張られて、突き当たった面が離れないように気をつけて下さい。

3. ハンド・ツールのハンドルを締めて、ラチェットを解除します。ハンドルを全開にし、ラチェットのカチッという音が 2 回聞こえるまで、ゆっくりと工具のハンドルを締めます。
4. コネクタ・アッセンブリをケーブル・ホルダー・アッセンブリに留めたまま、フロント・ダイの上部くぼみにフェルールが、又リア・ダイの上部くぼみにプランジャがくるようにします。Fig.4、詳細 C を参照して下さい。

注意：フロント・ダイに記された矢印は、コネクタがそのくぼみに配置された時、フェルールが向く方向を示しています。正しく配置し、ファイバーへの損傷を避けるため、矢印の方向を守る必要があります。Fig.4、詳細 C 及び Fig.5、詳細 A を参照して下さい。

5. コネクタ・アッセンブリに向けてバッファを静かに押し、ファイバーがしっかりと突き当たっていることを確認してから、ラチェットが外れるまで工具のハンドルをゆっくりと締めます。ハンドルを全開にし、コネクタをダイから取外します。
6. コネクタ・アッセンブリのプランジャをフロント・ダイの1つ目の(最も小さい)くぼみに配置します。この時、こぶがダイの溝の端部に接し、フェルールが矢印の方向を向いている必要があります。Fig. 5、詳細 A を参照して下さい。
7. 工具のハンドルを同時にゆっくりとラチェットが解除するまで握ります。ハンドルを全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
8. ダスト・キャップをフェルールに取付けます。ケーブル・ホルダー上のケーブル・クランプを開き、クランプからファイバーを取外します。ベア・バッファ・ブーツをプランジャに嵌めます。ブーツがコネクタ・アッセンブリに接するまで押して下さい。Fig. 5、詳細 B を参照して下さい。
9. ケーブル・ホルダー・アッセンブリからコネクタ・アッセンブリを取外して下さい。
10. コネクタ・ハウジングのキーをコネクタ・アッセンブリの面取り面に合わせ、定位置にパチンと嵌まるまでハウジングの中にアッセンブリを押し込みます。Fig.5、詳細 C を参照して下さい。

注記：これらのコンポーネントは1方向でのみ嵌め合うようにできています。無理に嵌めようとししないで下さい。

250- μ m のコーテッド・ファイバーの組立手順はこれで完了です。

Fig.2 : ファイバーの準備

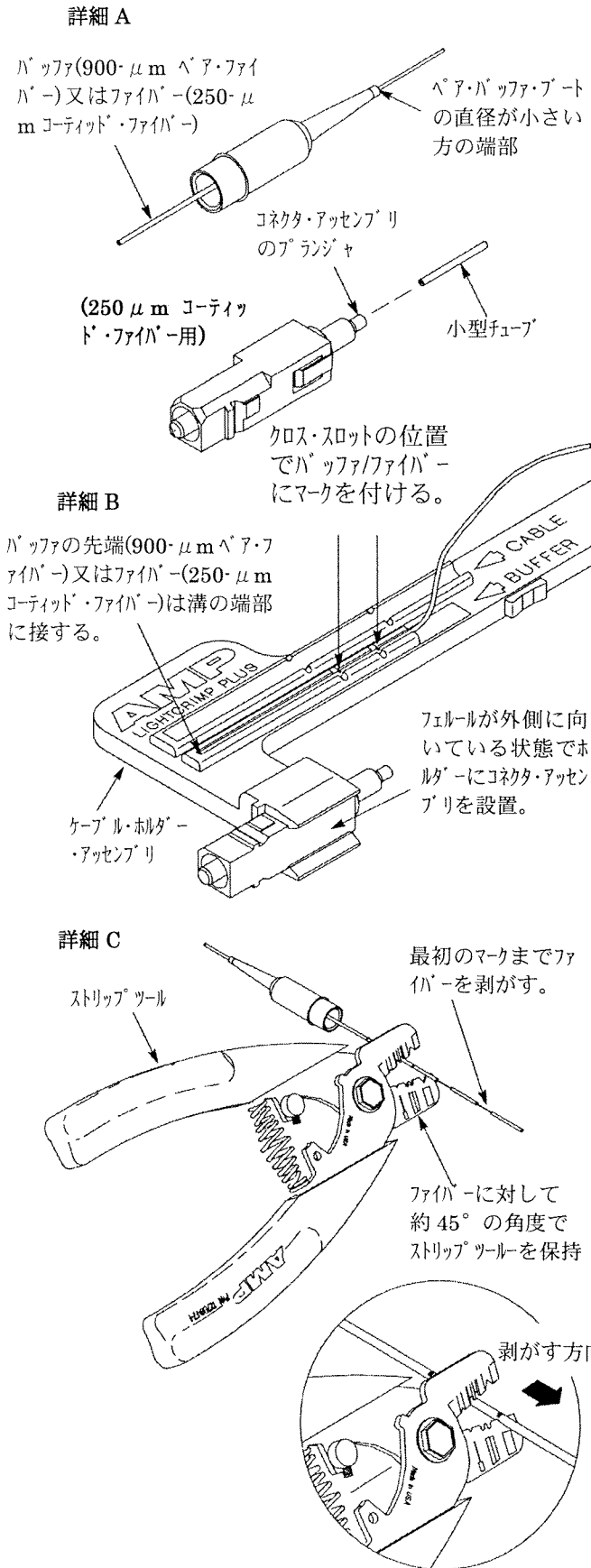


Fig.3 : 切断

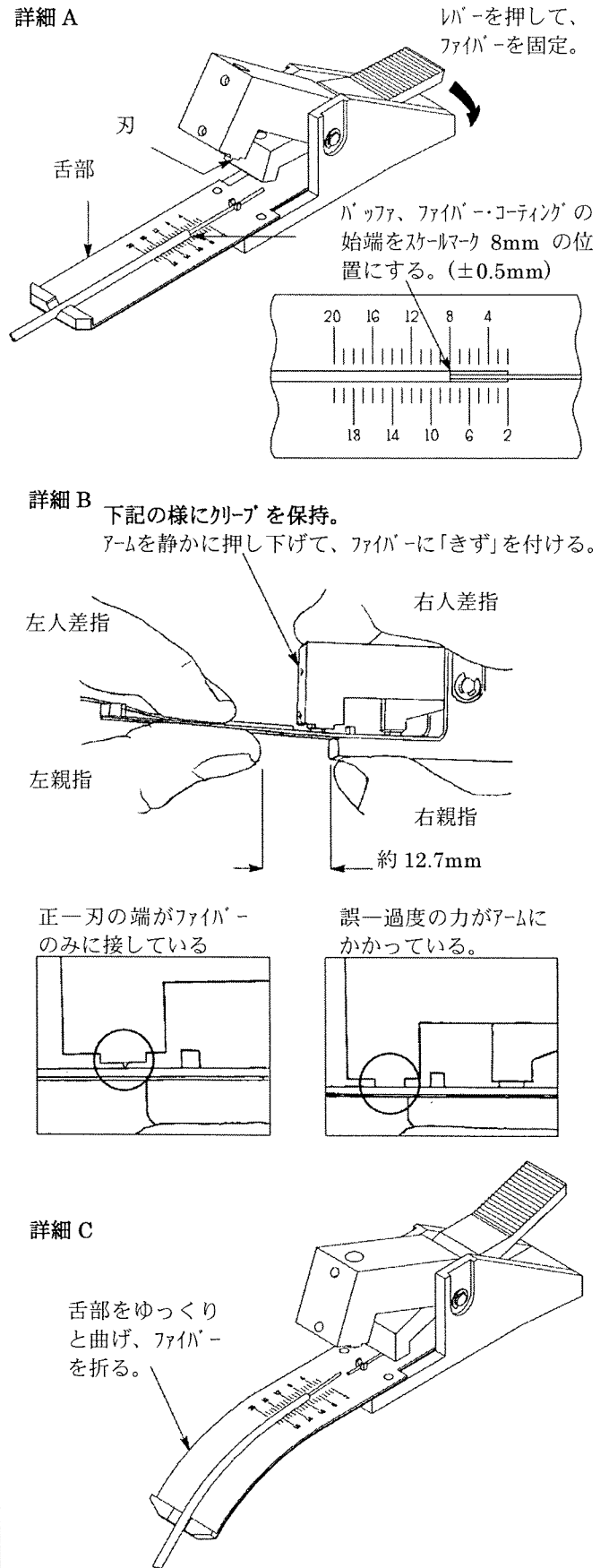


Fig.4 : 圧着

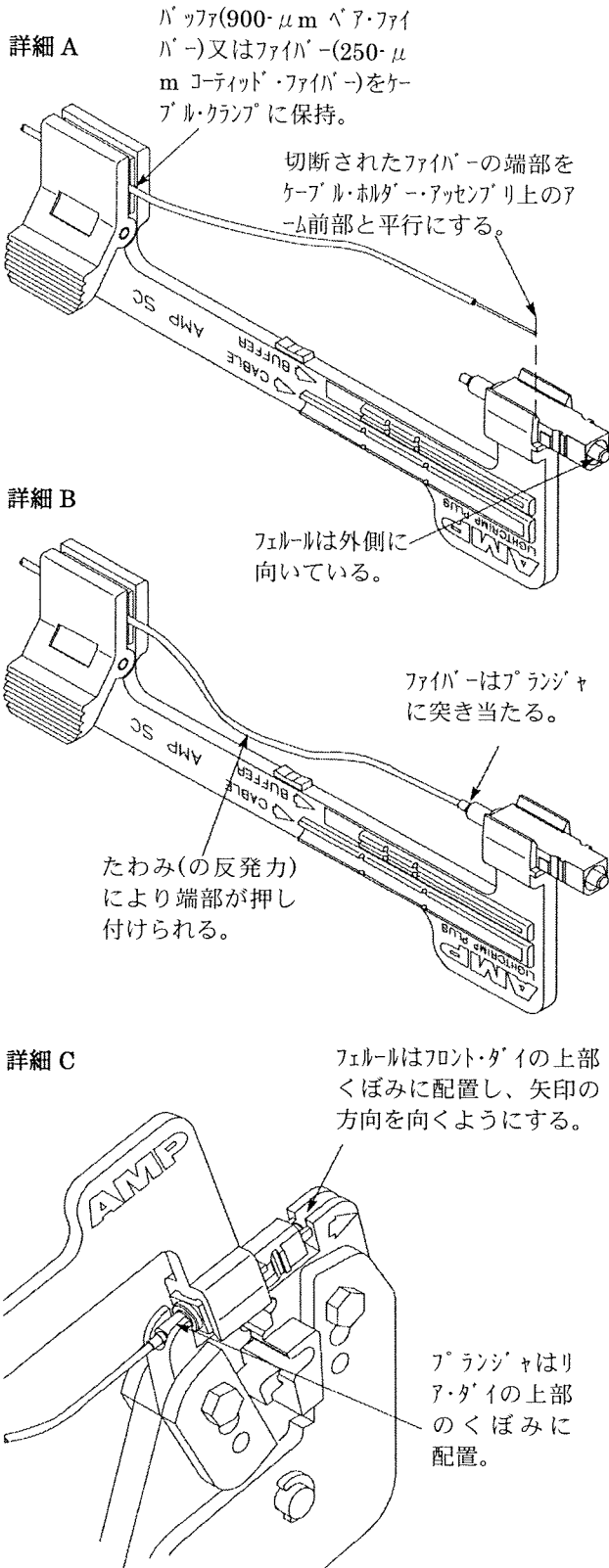
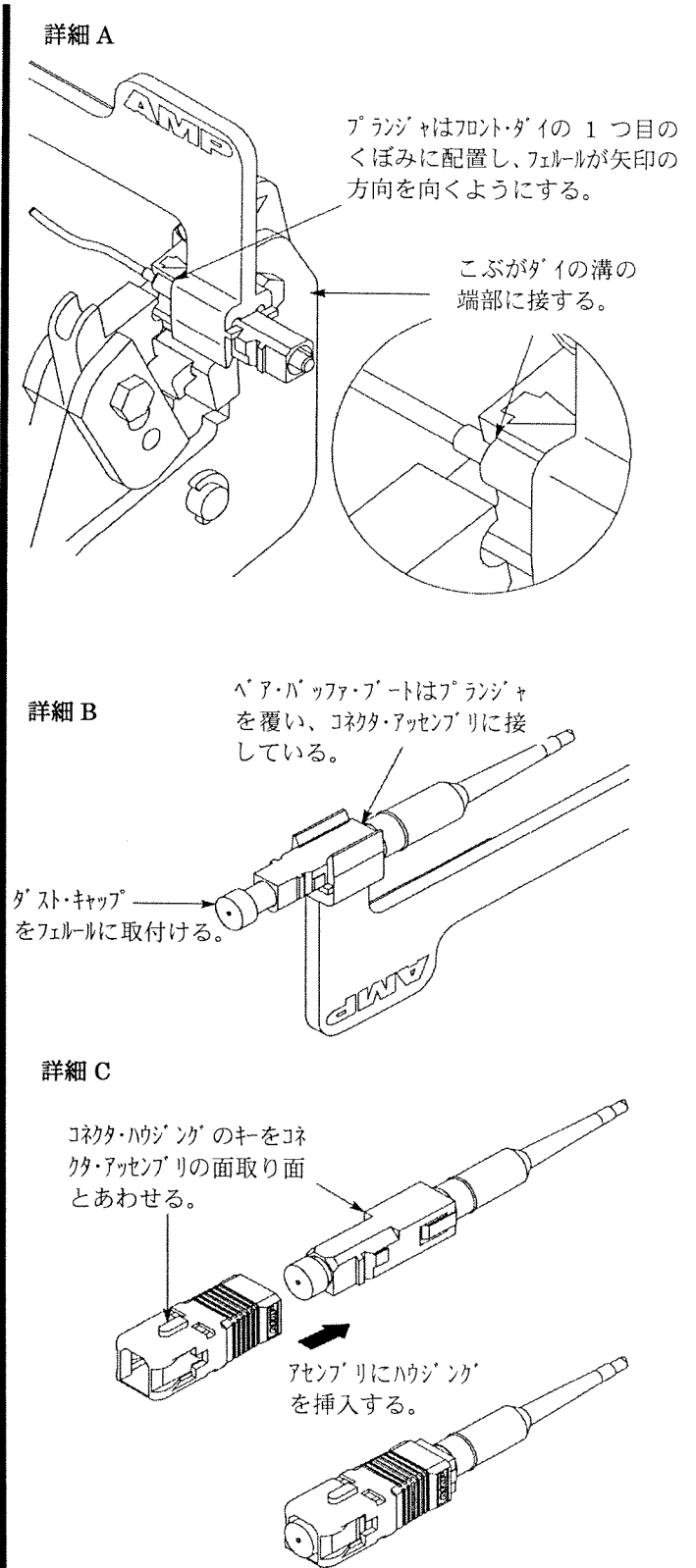
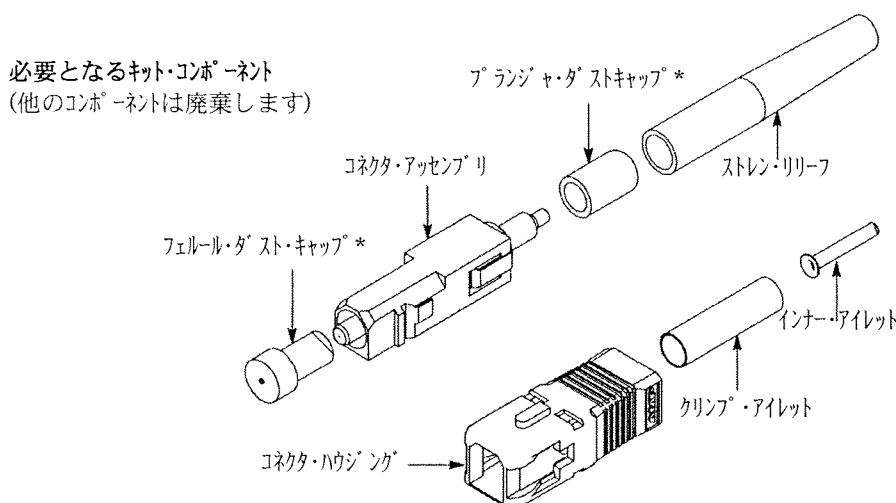


Fig.5 : 圧着



5.3.2.5~3.0mm ジャケット・ケーブル

シングルモード・ファイバーは使用しないで下さい。



*コネクタはダストキャップがコネクタに取付けられている状態で出荷されます。
組立ての準備が整うまでダストキャップを所定の位置に取付けておいて下さい。

A. 2.5~3.0mm のジャケットケーブルの準備 (Fig.6 と 7)

1. ケーブル上にストレン・リリーフ(直径の小さい端を最初に)を挿入します。Fig.6、詳細 A を参照して下さい。
2. コネクタ・アッセンブリからダスト・キャップを両方とも取外します。フェルル・ダスト・キャップは保管しておき、プランジャ・ダスト・キャップは廃棄します。
3. フェルルが外側に向くように、ケーブル・ホルダー・アッセンブリのホルダーにコネクタ・アッセンブリを押込みます。コネクタがケーブル・ホルダー・アッセンブリのアームの溝の奥まで押し付けられていることを確認します。「CABLE」と記された溝にケーブルを挿入します。ジャケットの先端が溝の端部に確実に接するようにします。Fig.6、詳細 B を参照して下さい。
4. 溝の各クロス・スロットの位置でケーブルにマークを付けます。Fig.6、詳細 B を参照して下さい。ケーブル・ホルダー・アッセンブリからケーブルを取外して下さい。
5. ストリップツールを使用して、ツールの一番外側のスロットで、ジャケットの個々のマークの位置を切ります。Fig.6、詳細 C を参照して下さい。
6. 1 つ目のジャケットセグメントを取り除き、補強材を放射状に拡げてバッファから離します。はさみを使用して、ジャケットと同じ位置まで補強材を切り落とします。次に残りのジャケットセグメントを取り除きます。Fig.6、詳細 D を参照して下さい。
7. クリンピング・アイレットにバッファを通し、アイレットを使用して、補強材をジャケット上に折り返します。補強材がアイレットの前部に現れるまで、ジャケット上のアイレットを挿入します。Fig.7、詳細 A を参照して下さい。
8. インナー・アイレットをフランジの付いていない端を先にして、バッファに通します。アイレットがクリンピング・アイレットの前部と同じ位置に来るまで、補強材の内側にアイレットを押し込みます。Fig.7、詳細 B を参照して下さい。
9. ケーブル・ホルダー・アッセンブリの「BUFFER」と記された溝にバッファを挿入します。バッファの先が溝の端部に接していることを確認します。Fig.7、詳細 C を参照して下さい。

10. 溝の各クロススロットの位置において、バッファにマークを付けます。Fig.7、詳細 D を参照して下さい。ケーブル・ホルダー・アッセンブリからバッファを取外します。
11. ストリップツールを使用して、バッファを1つ目のマークまで剥がします。バッファに対して一定の角度でストリップツールを持ち、3回に分けて剥がすことをお勧めします。Fig.7、詳細 D を参照して下さい。アルコール・ファイバー・ワイプでファイバーを清掃し、残っているファイバー・コーティングを取り除きます。

注意：ストリップツールを使用する前に「V」の開口部が清潔であることを確認して下さい。清潔な状態でないとファイバーが破損する恐れがあります。工具清掃にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

B. 切断(Fig.8)

注意：ファイバーへの損傷を避けるため、クリーブツールの刃及び刃の周辺部分が清潔であることを確認して下さい。ツールの清掃にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

軽く押さえるだけで切断刃が滑らかに上下することを確認して下さい。必要に応じてイソプロピル・アルコールで清掃して下さい

1. クリーブツールのレバーを押し、クランプを開きます。舌部の溝にファイバーを配置します。この時バッファの始端がスケール・マークの8mm(±0.5mm)の位置にある状態にします。Fig.8、詳細 A を参照して下さい。
2. ファイバーをそのまま保持し、レバーを放してファイバーを固定します。Fig.8、詳細 B のようにクリーブツールを保持して下さい。工具の舌部が平坦であることを確認してから、工具のアームを静かに押し下げ、ファイバーに印(線を刻む)を付けます。刃の縁がファイバーに触れる程度に留めておきます。アームを放します。

注意：ファイバーへの損傷を避けるため、アームを押し下げる時には、過度の圧力を加えないで下さい。

3. ファイバーをそのまま保持し、舌部をねじれないようにゆっくりと曲げ、ファイバーを切断します。Fig.8、詳細 C を参照して下さい。汚れるのを防ぐため、切断したファイバーの端部には触れないようにします。切断したファイバーの端部はクリーニングしないで下さい。

注意：ツールの舌部への損傷を避けるため、舌部を45°以上曲げないで下さい。

注意：切断刃の寿命は1000回です。型番1278219-1と取替えて使用して下さい。

C. 圧着 (Fig.9、10 と 11)

1. ケーブル・ホルダー・アッセンブリのケーブル・クランプを開き、クランプの内側にバッファを入れます。(切断された端部がコネクタに面している)。ケーブル・ホルダー・アッセンブリのアームの前部と、ファイバーの端部が平行になるようにバッファを動かして、定位置に保持したままクランプを閉じます。Fig.9、詳細 A を参照して下さい。
2. バッファが内部で突き当たるまで、注意してコネクタ・アッセンブリのプランジャに挿入します。バッファの残りのマークが確実にプランジャに入るようにします(マークがプランジャに入らない場合、ファイバーを再度剥がす必要があります)。バッファが湾曲することにより(その反発力で)、挿入されたファイバーの端面が内部のファイバーの端面に押し付けられます。Fig.9、詳細 B を参照して下さい。

注記：ファイバーが内部で突き当たり、そのまま保持されることが重要です。

マークがプランジャに入らなかったり、ファイバーが内部のファイバーに突き当たらなかったりしたら、インターナル・ガイドに引っ掛っている可能性があります。コネクタを回転させ、バッファを少しだけ引き出し再度押し込んでみて下さい。

圧着作業中ファイバーが引っ張られて、突き当たった面が離れないように気をつけて下さい。

注意：インナー・アイレット(Fig.7、詳細 B 参照)とコネクタ・アッセンブリ(プランジャ)の先端部との間
が約 3.18mm(公称 4.76mm)あることを確認して下さい。(Fig. 9、詳細 B)
このスペースを保持しないと他のコネクタと嵌合した時、適切な性能が出ません。

3. ハンド・ツールのハンドルを握り、ラチェットを解除します。ハンドルを全開にし、ラチェットの
カチッという音が 2 回聞こえるまで、ゆっくりと工具のハンドルを締めます。
4. コネクタ・アッセンブリをケーブル・ホルダー・アッセンブリに留めたままで、フロント・ダイの
上部くぼみにフェルールが、リア・ダイの上部くぼみにプランジャがくるようにします。Fig.9、
詳細 C を参照して下さい。

注意：フロント・ダイに記された矢印はコネクタがそのくぼみに配置された時、フェルールが向く方向を
示しています。正しく配置し、ファイバーへの損傷を避けるため、矢印の方向を守る必要があります。
Fig.9、詳細 C 及び Fig.10、詳細 A を参照して下さい。

5. コネクタ・アッセンブリに向けてバッファを静かに押し、ファイバーがしっかりと突き当たって
いることを確認してから、ラチェットが外れるまで工具のハンドルをゆっくりと締めます。ハンドル
を全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
6. コネクタ・アッセンブリのプランジャをフロント・ダイの1つ目の(最も小さい)くぼみに配置します。
この時、こぶがダイの溝の端部に接し、フェルールが矢印の方向を向いている必要があります。
Fig.10、詳細 A を参照して下さい。
7. 工具のハンドルを同時にゆっくりとラチェットが解除するまで握ります。ハンドルを全開にし、コ
ネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
8. 先ず折り返した補強材が広がるまで、クリンピング・アイレットをコネクタ・アッセンブリにスラ
イドさせます。次にコネクタに向けてクリンピング・アイレットをずらし、補強材とクリンピング・
アイレットがコネクタに接するようにします。Fig.10、詳細 B を参照して下さい。
9. クリンピング・アイレットの直径が大きい方の端部を、フロント・ダイの最後の(最も大きい)くぼ
みに配置します。この時、フェルールが矢印の方向を向いている必要があります。Fig.11、詳細 A
を参照して下さい。工具のハンドルを同時にゆっくりとラチェットが解除するまで握ります。ハン
ドルを全開にします。
10. ダスト・キャップをフェルールに取り付け、プランジャに向かってストレン・リリーフをスライ
ドさせ、ストレン・リリーフがコネクタ・アッセンブリに突き当たるようにします。Fig.11、詳細 C
を参照して下さい。
11. ケーブル・ホルダー・アッセンブリからコネクタ・アッセンブリを取外します。
12. コネクタ・ハウジングのキーを、コネクタ・アッセンブリの面取り面と合わせ、定位置にパチンと
嵌るまでハウジングの中にアッセンブリを押し込みます。Fig.11、詳細 C を参照下さい。

注記：これらのコンポーネントは、1方向でのみ嵌め合うようにできています。無理に嵌めようとしないで
下さい。

2.5~3.0mm のジャケット・ケーブルの組立手順は、これで完了です。

Fig.6 : ケーブルの準備

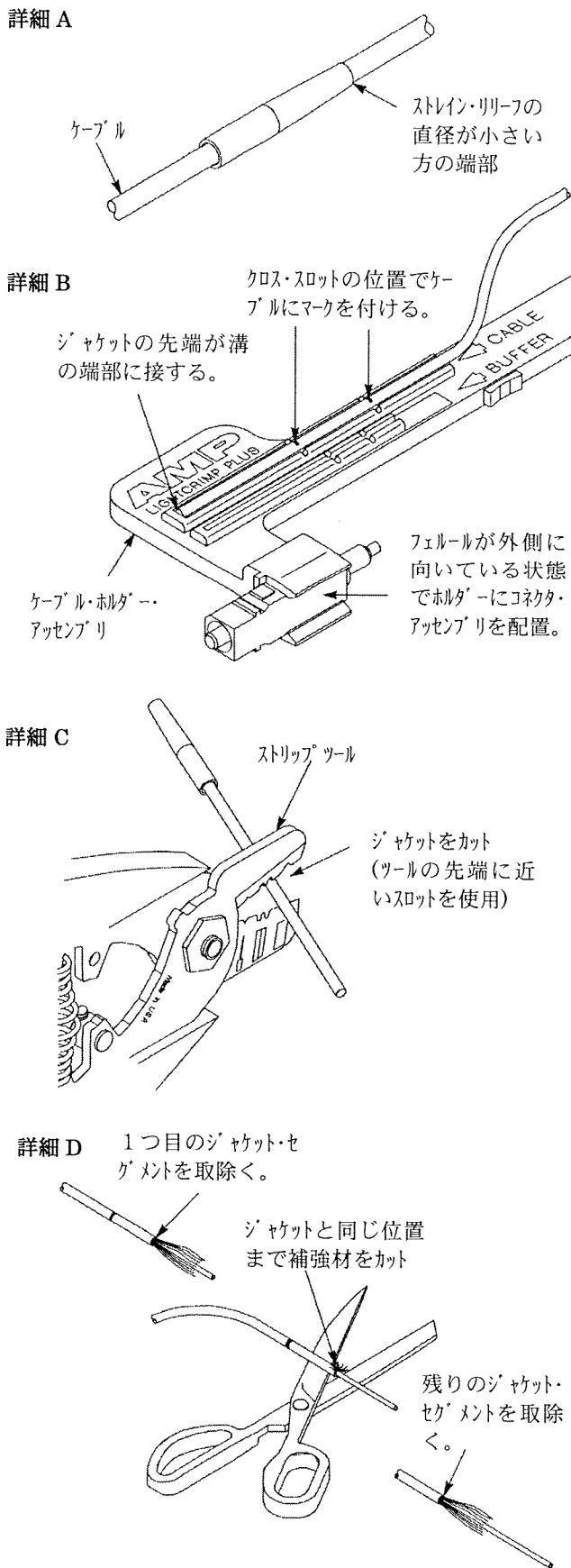


Fig.7 : ケーブルの準備

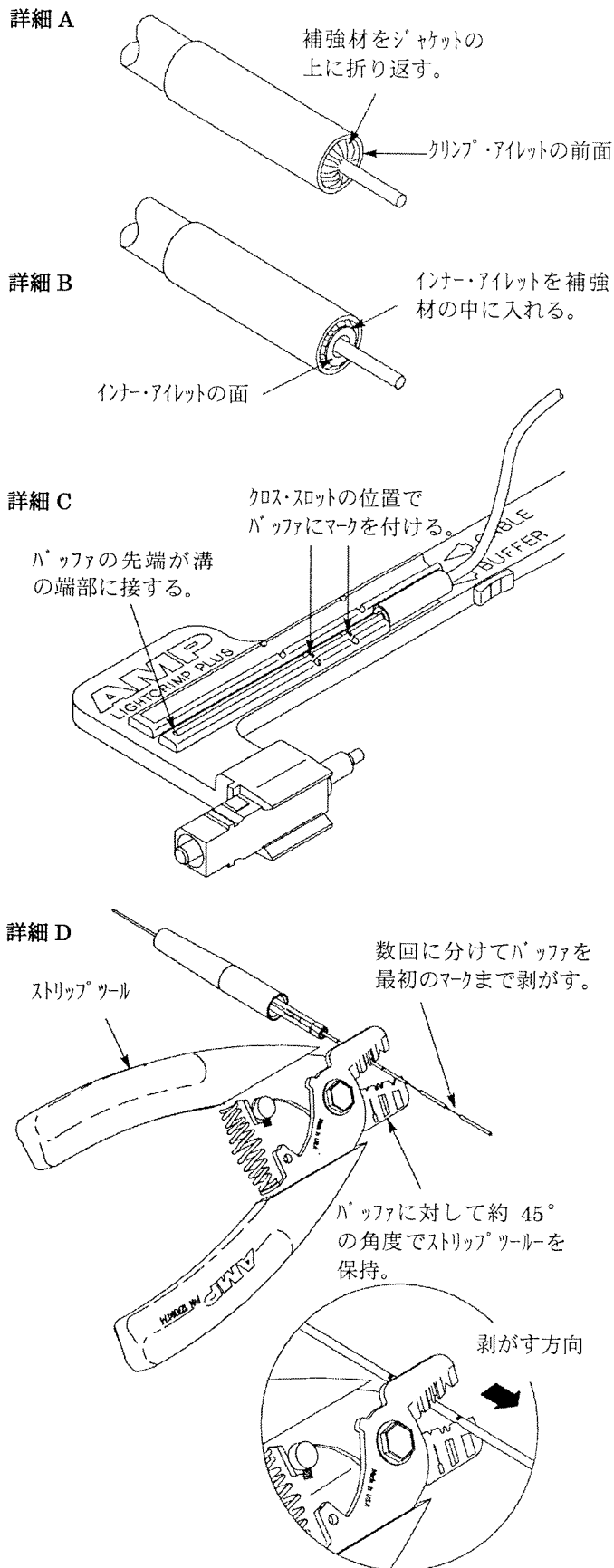
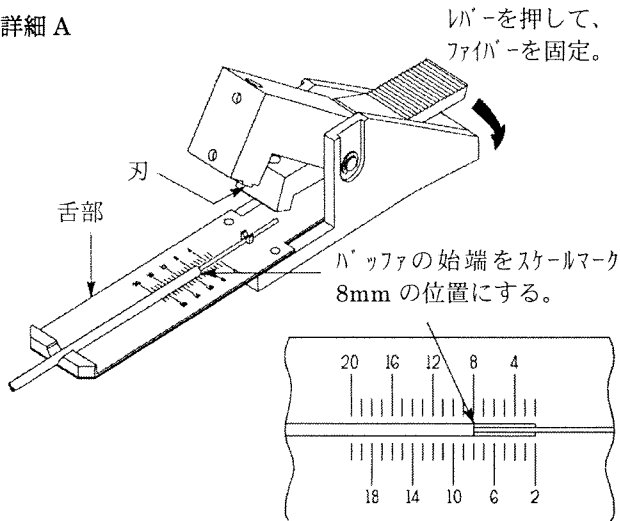


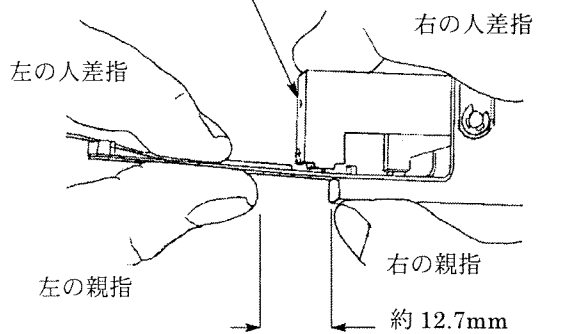
Fig.8 : 切断

詳細 A

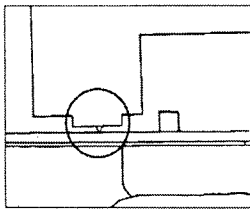


詳細 B

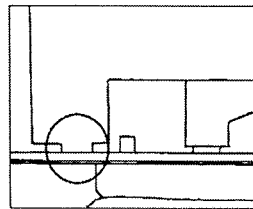
下記のように切断ツールを保持。
アームを静かに押し下げてファイバーに「きず」をつける。



正—刃の端だけがファイバーに触れる。



誤—アームに過度の力がかかっている。



詳細 C

舌部をゆっくりと曲げ、ファイバーを折る。

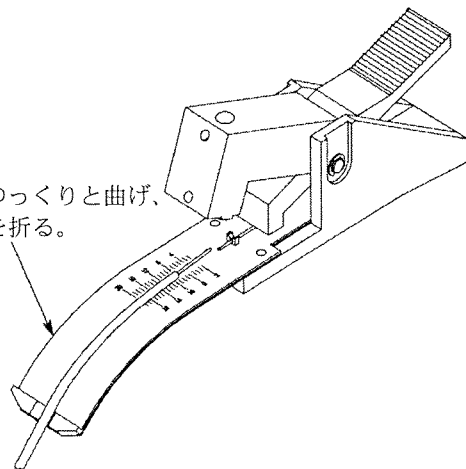
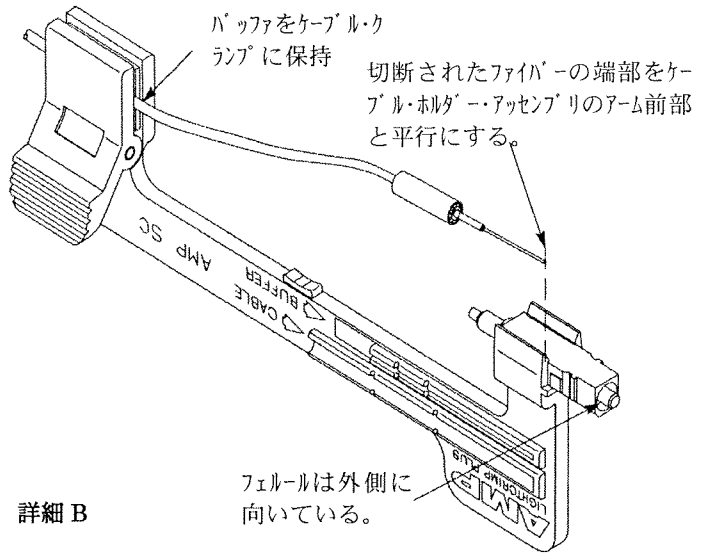


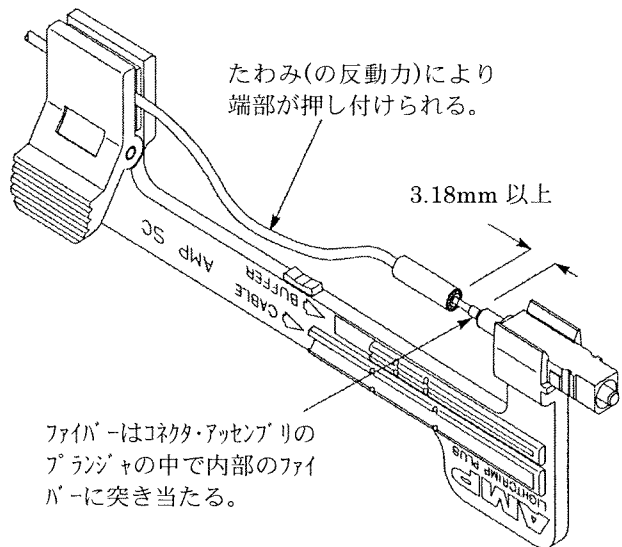
Fig.9 : 圧着

詳細 A



詳細 B

フェールは外側に向いている。



詳細 C

フェールはフロント・ダィの上部くぼみに配置し、矢印の方向を向くようにする。

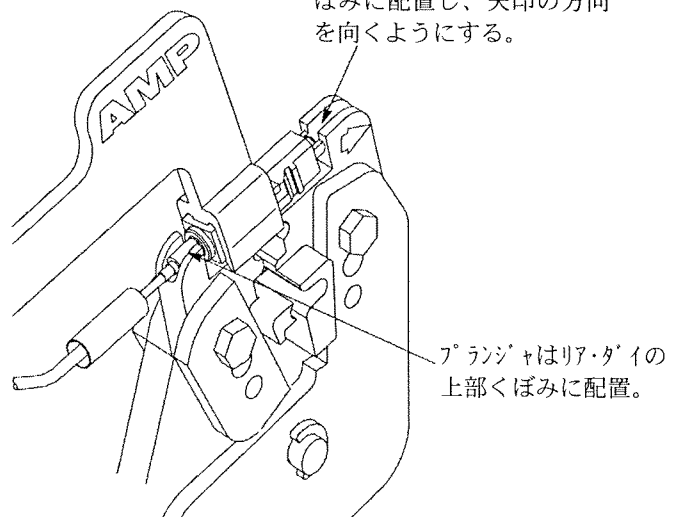
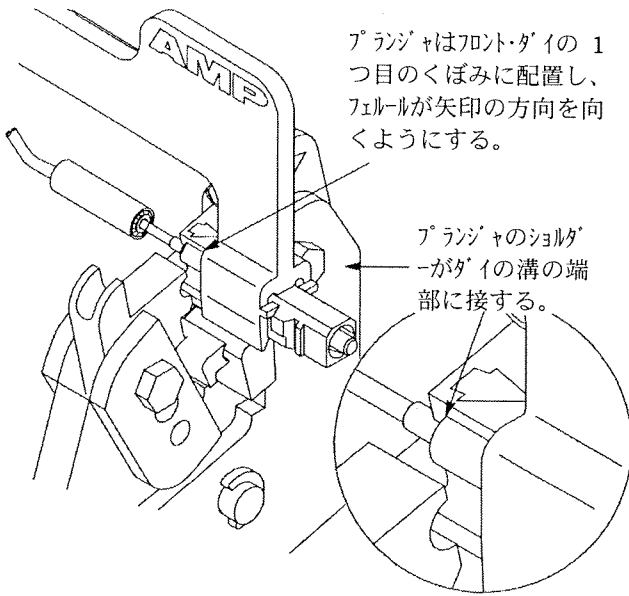


Fig.10 : 圧着

詳細 A



詳細 B

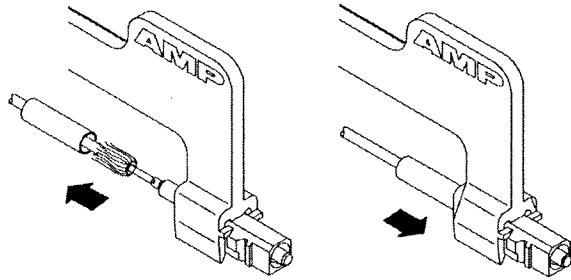
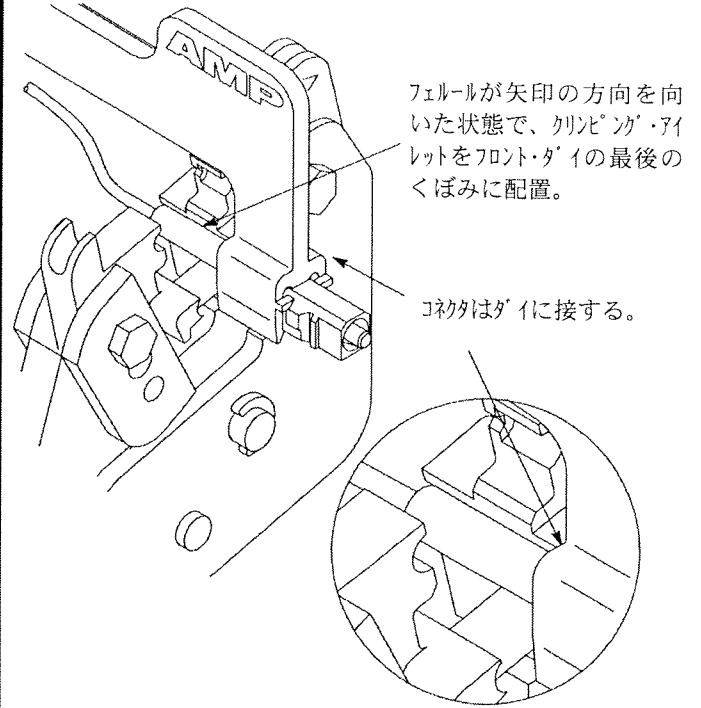
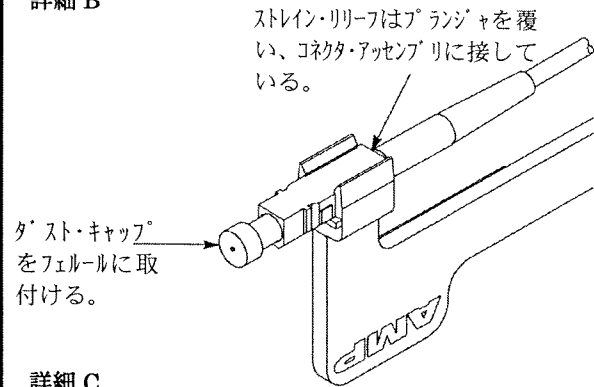


Fig.11 : 圧着

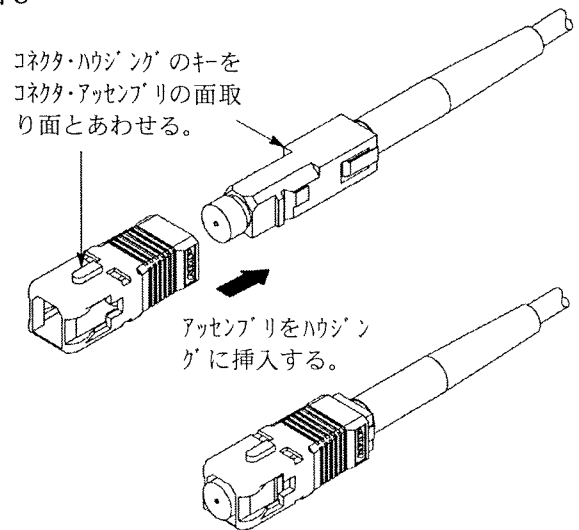
詳細 A



詳細 B

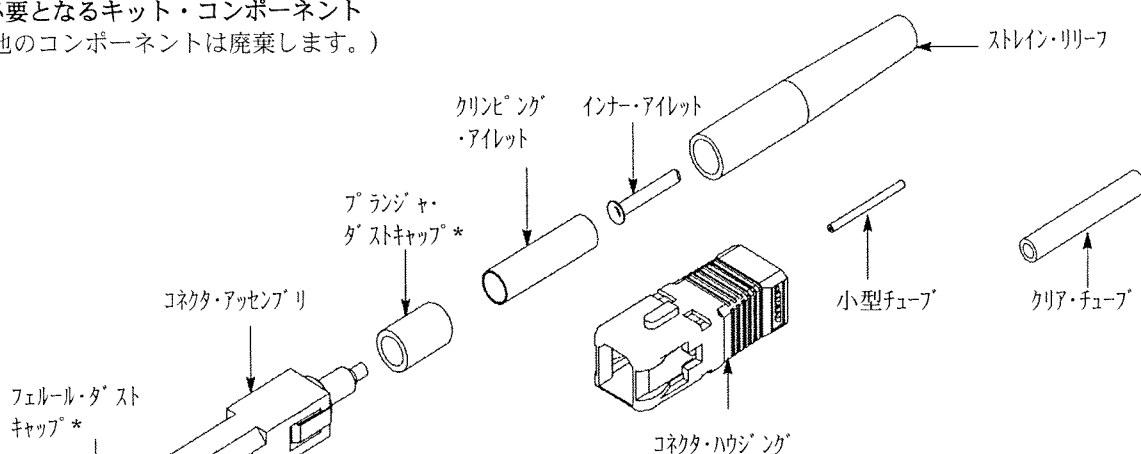


詳細 C



5.4. 900- μ mバッファード・ブレイクアウトのターミネーション

必要となるキット・コンポーネント
(他のコンポーネントは廃棄します。)



*コネクタはダストキャップがコネクタに取付けられている状態で出荷されます。組立ての準備が整うまでダストキャップを所定の位置に取付けておいて下さい。

A. ファイバーとバッファ・チューブの準備(Fig.12)

- ブレイクアウト・ファイバーはバッファ・チューブ毎に一本のファイバーが入ったケーブルに取り付けます。ファイバーとバッファ・チューブは同じ長さに切ります。
- クリア・チューブの端部から 4mm の所に筒に沿って線を引いて下さい。(約 90° 周囲)。Fig.12、詳細 A 参照して下さい。
- インナー・アイレットを細い方からクリア・チューブに差込み、フランジ(鏝)が当たって止まるまで押し込みます。Fig.12、詳細 A を参照して下さい。
- ケーブルにストレン・リリーフ(細い方から)、インナー・アイレットとクリア・チューブが一緒になったもの、そしてクリッピング・アイレットを通します。Fig.12、詳細 B を参照して下さい。
- コネクタ・アッセンブリから両方のダスト・キャップを取外して、フェルール・ダスト・キャップを保持します。プランジャ・ダスト・キャップを廃棄して下さい。
- コネクタ・アッセンブリのプランジャの中に小型(白い)チューブを挿入します。奥に突き当たって止まるまで押し込んで下さい。Fig.12、詳細 C を参照して下さい。
- フェルールが外側を向くようにケーブル・ホルダー・アッセンブリ上のホルダーにコネクタ・アッセンブリを押し込みます。Fig.12、詳細 D のようにコネクタがケーブル・ホルダー・アッセンブリのアームの溝の奥に確実に接するようにします。

ケーブル・ホルダー上の「BUFFER」と記された溝にバッファ・チューブを挿入します。バッファの先端が溝の端部に確実に接するようにします。Fig.12、詳細 D を参照して下さい。

- 溝の端部(ファイバーの先から約 43mm の所)の位置でバッファ・チューブにマークを付けます。Fig.12、詳細 D 参照して下さい。マークの所でバッファ・チューブを切ってファイバーから外して下さい。

注記：バッファ・チューブは 250- μ m コーテッド・ファイバーより約 43mm短くなっています。

- 250 μ mコーテッド・ファイバーをケーブル・ホルダー・アッセンブリの「BUFFER」とマークされた溝に挿入します。ファイバーの先が溝の端部に接していることを確認します。溝の各クロススロットの位置において、ファイバーにマークを付けます。Fig.12、詳細 D を参照して下さい。溝からファイバーを取外して下さい。

10. ストリップツールを使用して、250 μ mファイバー・コーティングを一つのマークまで剥がします。ファイバーに対して一定の角度でストリップツールを持ち、ファイバーコーティングを3回に分けて剥がすことをお勧めします。Fig.12、詳細 E を参照して下さい。アルコール・ファイバー・ワイプでファイバーをクリーニングし、残っているコーティングを取り除きます。

注意：ストリップツールを使用する前に「V」の開口部が清潔であることを確認して下さい。清潔な状態ないとファイバーが破損する恐れがあります。工具清掃にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

B. 切断(Fig.13)

注記：ファイバーへの損傷を避けるため、クリーブツールの刃及び刃の周辺部分が清潔であることを確認して下さい。ツールの清掃にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

軽く押さえるだけで切断刃が滑らかに上下することを確認して下さい。必要に応じてイソプロピル・アルコールで清掃して下さい。

1. クリンプツールのレバーを押し、クランプを開きます。舌部の溝にファイバーを配置しますが、この時バッファの始端がスケール・マークの8mm(\pm 0.5mm)の位置にある状態にします。Fig.13、詳細 A を参照して下さい。
2. ファイバーをそのままに保持し、レバーを放してファイバーを固定します。Fig.13、詳細 B のようにクリーブツールを保持して下さい。工具の舌部が平坦であることを確認し、工具のアームを静かに押し下げ、ファイバーに印(線を刻む)を付けます。刃の縁がファイバーに触れる程度で留めておきます。アームを放します。

注意：ファイバーへの損傷を避けるため、アームを押し下げる時には、過度の圧力を加えないで下さい。

3. ファイバーをそのまま保持し、舌部をねじれないようにゆっくりと曲げ、ファイバーを切断します。Fig.13、詳細 C を参照して下さい。汚れるのを防ぐため、切断したファイバーの端部には触れないようにします。切断したファイバーの端部はクリーニングしないで下さい。

注意：ツールの舌部への損傷を避けるため、舌部を45°以上曲げないで下さい。

注記：切断刃の寿命は1000回です。型番1278219-1と取替えて使用して下さい。

C. 圧着(Fig.14 と 15)

1. ケーブル・ホルダー・アッセンブリ上のケーブル・クランプを開き、クランプの内側にファイバーを入れます。(ファイバーの端部がコネクタ側に向けた状態)。ケーブル・ホルダー・アッセンブリのアームの前部と平行になるようファイバーの端部を引き、ファイバーを保持したままクランプを閉じます。Fig.14、詳細 A を参照して下さい。
2. 250- μ m ファイバー・コーティングを保持し、ファイバーが内部で突き当たるまで、注意してコネクタ・アッセンブリのプランジャに挿入します。コーティングの2番目のマークが確実にプランジャに入るようにします(マークがプランジャに入らない場合、ファイバーを再度剥がす必要があります)。ファイバーが湾曲することにより(その反発力で)、挿入されたファイバーの端面が内部のファイバーの端面に押し付けられます。Fig.14、詳細 B を参照して下さい。

又ファイバー・コーティングは、5.4 項 A、手順 6 でコネクタ後部に押し込んだ細径のチューブの中に通すようにして下さい。先端が細いチューブの奥まで入るようにして下さい。

注記：ファイバーが内部で突き当たり、そのまま保持されることが重要です。

マークがプランジャに入らなかったり、ファイバーが内部のファイバーに突き当たらなかったりしたら、インターナル・ガイドに引っ掛っている可能性があります。コネクタを回転させ、ファイバーを少しだけ引き出し再度押し込んでみて下さい。

注意：ファイバーをコネクタに挿入する際、コーティングがはげないように注意して下さい。
ファイバーがバッファに刺さると、真っ直ぐに入っていくはず内部のファイバーに突き当たりません。

圧着作業中ファイバーが引っ張られて、突き当たった面が離れないように気をつけて下さい。

3. ハンドツールのハンドルを握り、ラチェットを解除します。ハンドルを全開にし、ラチェットのカチッという音が2回聞こえるまで、ゆっくりと工具のハンドルを締めます。
4. コネクタ・アッセンブリをケーブル・ホルダー・アッセンブリに留めたままで、フロント・ダイの上部くぼみにフェルールが、リア・ダイの上部くぼみにプランジャがくるようにします。Fig.14、詳細Cを参照して下さい。

注意：フロント・ダイに記された矢印はコネクタがそのくぼみに配置された時、フェルールが向く方向を示しています。正しく配置し、ファイバーへの損傷を避けるため、矢印の方向を守る必要があります。Fig.14、詳細Cと詳細Dを参照して下さい。

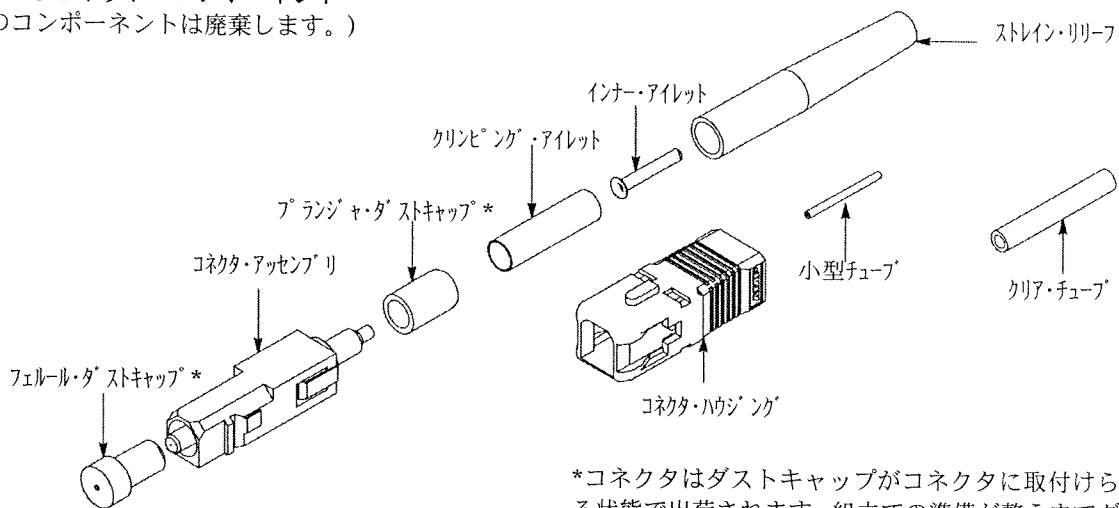
5. コネクタ・アッセンブリに向けてファイバーを静かに押し、ファイバーがしっかりと突き当たっていることを確認してから、ラチェットが外れるまで工具のハンドルをゆっくりと締めます。ハンドルを全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
6. コネクタ・アッセンブリのプランジャをフロント・ダイの1つ目の(最も小さい)くぼみに配置します。この時、こぶがダイの溝の端部に接し、フェルールが矢印の方向を向いている必要があります。Fig.14、詳細Dを参照して下さい。
7. 工具のハンドルを同時にゆっくりとラチェットが解除するまで握ります。ハンドルを全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
8. クリンピング・アイレットをコネクタ・アッセンブリの後部に突き当たるまでスライドさせます。
9. クリア・チューブ筒に沿った線(5.4.A.2 で引いた線)がクリンピング・アイレットの端とぴったり合うまで、クリンピング・アイレットの中にインナー・アイレットと一本化したクリア・チューブを挿入します。Fig.15、詳細Aを参照して下さい。
10. 線がクリンピング・アイレットの端からずれないように注意して、クリンピング・アイレットをフロント・ダイの奥の側(大きい方)のくぼみに配置します。フェルールがダイに刻印されている矢印で同じ方向を向くようにして下さい。コネクタ・アッセンブリの後端がダイに接していること。Fig.15、詳細Bを参照して下さい。
11. 工具のハンドルを同時にゆっくりとラチェットが解除するまで握ります。ハンドルを全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
12. ダスト・キャップをフェルールに取付けます。ケーブル・ホルダー・アッセンブリ上のケーブル・クランプを開き、クランプからファイバーを取外します。プランジャに向かってストレン・リリーフをスライドさせコネクタに突き当てます。Fig.15、詳細Cを参照して下さい。
13. ケーブル・ホルダー・アッセンブリからコネクタ・アッセンブリを取外して下さい。
14. コネクタ・アッセンブリの面取り面をコネクタ・ハウジングのキーと合わせます。定位置にパチンと嵌まるまでハウジングの中にアッセンブリ(コネクタ本体)を押し込みます。Fig.15、詳細Dを参照して下さい。

注記：これらのコンポーネントは1方向でのみ嵌め合うようにできています。無理に嵌めようとしないで下さい。

900- μ m のバッファード・ブレイクアウト・ファイバーの組立手順はこれで完了です。

5.5. 900- μ m イージー・ストリップ又はセミタイト・バッファード・ファイバー

必要となるキット・コンポーネント
(他のコンポーネントは廃棄します。)



*コネクタはダストキャップがコネクタに取付けられている状態で出荷されます。組立ての準備が整うまでダストキャップを所定の位置に取付けておいて下さい。

A. 900 μ m ベア・バッファード・ファイバーの手順 (Fig.12)

1. マーキングペンでクリア・チューブの端部から 4mm の所に筒に沿って線を引いて下さい。Fig.12、詳細 A 参照して下さい。
2. インナー・アイレットを細い方からクリア・チューブに差込み、フランジ(鏝)が当たって止まるまで押し込みます。Fig.12、詳細 A を参照して下さい。
3. ファイバーにストレン・リリーフ(細い方の端)、インナー・アイレットとクリア・チューブが一緒になったもの、クリンピング・アイレットを通します。Fig.12、詳細 B を参照して下さい。
4. コネクタ・アッセンブリからダスト・キャップを両方とも取外します。フェール・ダスト・キャップは保管しておき、プランジャ・ダスト・キャップは破棄します。
5. コネクタ・アッセンブリのプランジャの中に小型(白い)チューブを挿入します。奥に突き当たって止まるまで押し込んで下さい。Fig.12、詳細 C を参照して下さい。
6. フェールルが外側を向くようにケーブル・ホルダー・アッセンブリ上のホルダーにコネクタ・アッセンブリを押し込みます。コネクタがケーブル・ホルダーのアームの溝の奥に確実に接するようにします。

ケーブル・ホルダーの「BUFFER」と記された溝にファイバーを挿入します。ファイバーの先端が溝の端部に確実に接するようにします。Fig.12、詳細 D を参照して下さい。

7. 溝の各クロススロットの位置において、ファイバーにマークを付けます。Fig.12、詳細 D を参照して下さい。溝の一番端の位置にもマークします。溝からファイバーを取外します。
8. ストリップツールを使用して、250- μ m コーティングとバッファを 1 目目のマークの後まで剥がします。ファイバー・コーティングに対して、一定の角度でストリップツールを持ち、コーティングを 3 回に分けて剥がすことをお勧めします。Fig.12 の詳細 E を参照して下さい。アルコール・ファイバー・ワイプでファイバーをクリーニングし、残っているコーティングを取り除きます。
9. ストリップツールを使用して、125 μ m のファイバー剥がすより少し軽い力で引張ります。2 番目のマークまでバッファのみ(250- μ m ファイバー・コーティングは残す)剥がします。先ず練習して下さい。

10. 900- μ mバッファの肩部の所(10で剥がした部分の端)で250- μ mファイバー・コーティングにマークを付ける。3つ目のマークまでバッファのみ剥がします。

注意: ストリップツールを使用する前に、「V」の開口部が清潔であることを確認して下さい。清潔な状態でないファイバーが破損する恐れがあります。工具清掃にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

支給されたクリーニングブラシで、マイクロ・ストリッパーから切り屑を取り除いて下さい。

B. 切断(Fig.13)

注記: ファイバーへの損傷を避けるため、クリーブツールの刃及び刃の周辺部分が清潔であることを確認して下さい。ツールの清掃にはイソプロピル・アルコールのみ使用して下さい。

軽く押さえるだけで切断刃が滑らかに上下することを確認して下さい。必要に応じてイソプロピル・アルコールで清掃して下さい。

1. ツールのレバーを押し、クランプを開きます。舌部の溝にファイバーを配置します。この時バッファの始端がスケール・マークの8mm(\pm 0.5mm)の位置にある状態にします。Fig.13、詳細 A を参照して下さい。
2. ファイバーをそのまま保持し、レバーを放してファイバーを固定します。Fig.13、詳細 B のように工具の舌部が平坦であることを確認してから、工具のアームを静かに押し下げ、ファイバーに印(線を刻む)を付けます。刃の縁がファイバーに触れる程度に留めておきます。アームを放します。

注意: ファイバーへの損傷を避けるため、アームを押し下げる時には、過度の圧力を加えないで下さい。

3. ファイバーをそのままに保持し、舌部をねじれないようにゆっくりと曲げ、ファイバーを切断します。Fig.13、詳細 C を参照して下さい。汚れるのを防ぐため、切断したファイバーの端部には触れないようにします。切断したファイバーの端部はクリーニングしないで下さい。

注意: ツールの舌部への損傷を避けるため、舌部を45°以上曲げないで下さい。

注記: 切断刃の寿命は1000回です。型番1278219-1と取替えて使用して下さい。

C. 圧着 (Fig.14 と 15)

1. ケーブル・ホルダー・アッセンブリ上のケーブル・クランプを開き、クランプの内側にファイバー(切断されたファイバーの端部がコネクタ側に向けた状態)を入れます。ケーブル・ホルダー・アッセンブリのアームの前部と平行になるようファイバーの端部を引き、ファイバーを保持したままクランプを閉じます。Fig.14、詳細 A を参照して下さい。
2. 250- μ m ファイバー・コーティングを保持し、ファイバーが内部で突き当たるまで、注意してコネクタ・アッセンブリのプランジャに挿入します。コーティングの2番目のマークが確実にプランジャに入るようにします。ファイバーが湾曲することにより(その反発力で)、挿入されたファイバーの端面が内部のファイバーの端面に押し付けられます。Fig.14、詳細 B を参照して下さい。

又、5.5 項 A、手順5に示すように、ファイバー・コーティングはコネクタ・アッセンブリの後部(プランジャ)に取り付けた小型チューブの中を通すようにして下さい。先端が小型チューブの奥まで入るようにして下さい。

注記: ファイバーが内部で突き当たり、そのまま保持されることが重要です。

マークがプランジャに入らなかったり、ファイバーが内部のファイバーに突き当たらなかったりしたら、インターナル・ガイドに引っ掛っている可能性があります。コネクタを回転させ、ファイバーを少しだけ引き出し再度押し込んでみて下さい。先端が小型チューブの奥まで入るようにして下さい。

注意: ファイバーをコネクタに挿入する際、コーティングがはげないように注意して下さい。ファイバーがバッファに刺さると、真っ直ぐに入っていかず内部のファイバーに突き当たりません。

圧着作業中ファイバーが引っ張られて、突き当たった面が離れないように気をつけて下さい。

3. ハンドツールのハンドルを握り、ラチェットを解除します。ハンドルを全開にし、ラチェットのカチッという音が2回聞こえるまで、ゆっくりと工具のハンドルを締めます。
4. コネクタ・アッセンブリをケーブル・ホルダー・アッセンブリに留めたままで、フロント・ダイの上部くぼみにフェルールが、又リア・ダイの上部くぼみにプランジャがくるようにします。Fig.14、詳細 C を参照して下さい。

注意：フロント・ダイに記された矢印はコネクタがそのくぼみに配置された時、フェルールが向く方向を示しています。正しく配置し、ファイバーへの損傷を避けるため、矢印の方向を守る必要があります。Fig.14、詳細 C と詳細 D を参照して下さい。

5. コネクタ・アッセンブリに向けてファイバーを静かに押し、ファイバーがしっかりと突き当たっていることを確認してから、ラチェットが外れるまで工具のハンドルをゆっくりと締めます。ハンドルを全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
6. コネクタ・アッセンブリのプランジャをフロント・ダイの1つ目の(最も小さい)くぼみに配置します。この時、こぶがダイの溝の端部に接し、フェルールが矢印の方向を向いている必要があります。Fig.14、詳細 D を参照して下さい。
7. 工具のハンドルを同時にゆっくりとラチェットが解除するまで握ります。ハンドルを全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
8. クリンピング・アイレットをコネクタ・アッセンブリの後部に突き当たるまでスライドさせます。
9. クリア・チューブ筒に沿った線がクリンピング・アイレットの端とぴったり合うまで、クリンピング・アイレットの中にインナー・アイレットと一本化したクリア・チューブを挿入します。Fig.15、詳細 A を参照して下さい。
10. 線がクリンピング・アイレットの端からずれないように注意して、クリンピング・アイレットをフロント・ダイの奥の側(大きい方)のくぼみに配置します。フェルールがダイに刻印されている矢印で同じ方向を向くようにして下さい。コネクタの後端がダイに接していること。Fig.15、詳細 B を参照して下さい。
11. 工具のハンドルを同時にゆっくりとラチェットが解除するまで握ります。ハンドルを全開にし、コネクタ・アッセンブリをダイから取外します。
12. ダスト・キャップをフェルールに取付けます。ケーブル・ホルダー・アッセンブリ上のケーブル・クランプを開き、クランプからファイバーを取外します。プランジャに向かってストレン・リリーフをスライドさせ、ストレン・リリーフがコネクタ・アッセンブリに接するようにします。Fig.15、詳細 C を参照して下さい。
13. ケーブル・ホルダー・アッセンブリからコネクタ・アッセンブリを取外します。
14. コネクタ・アッセンブリの面取り面をコネクタ・ハウジングのキーと合わせます。定位置にパチンと嵌まるまでハウジングの中にアッセンブリ(コネクタ本体)を押し込みます。Fig.15、詳細 D を参照して下さい。

注記：これらのコンポーネントは1方向でのみ嵌め合うようにできています。無理に嵌めようとしないで下さい。

900 μ m イージー・ストリップ又はセミタイト・バッファード・ファイバーの組立手順はこれで完了です。

Fig.12 : ファイバーとバッファ・チューブの準備

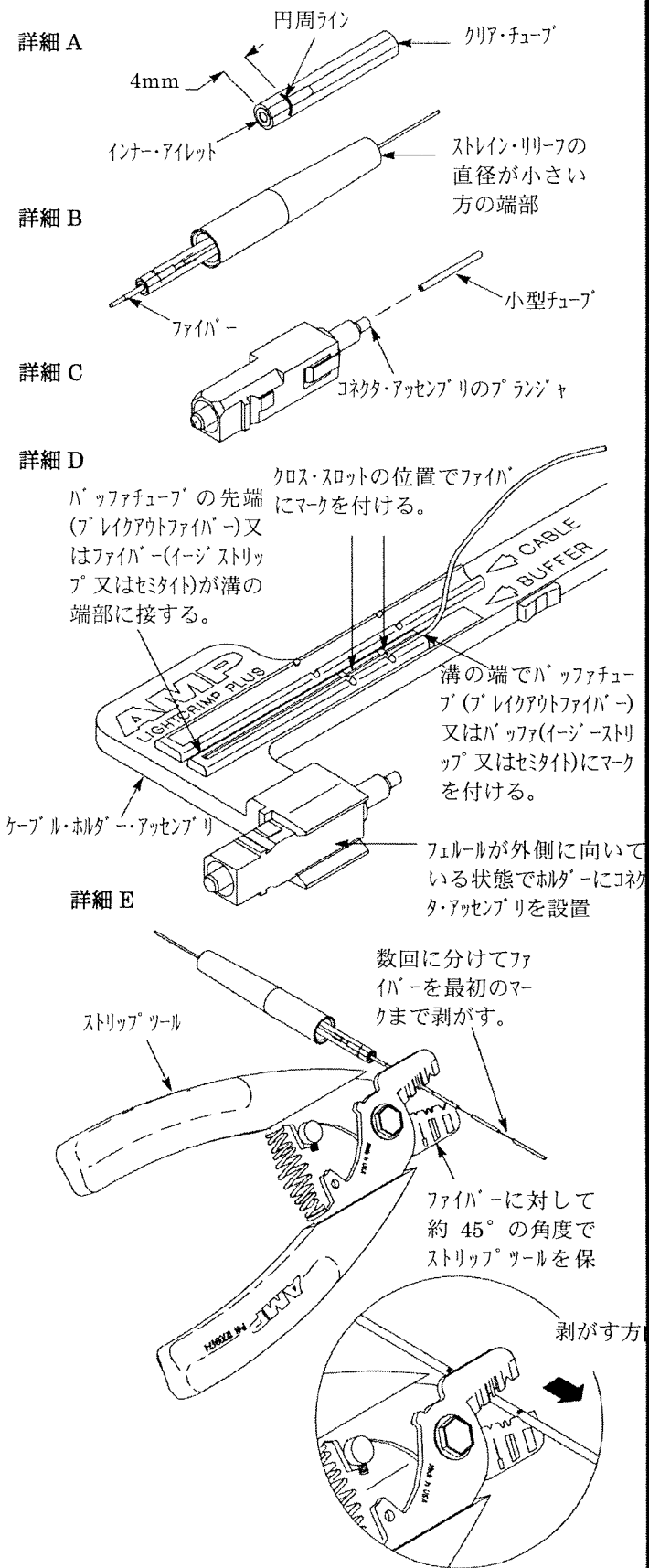


Fig.13 : クリーピング

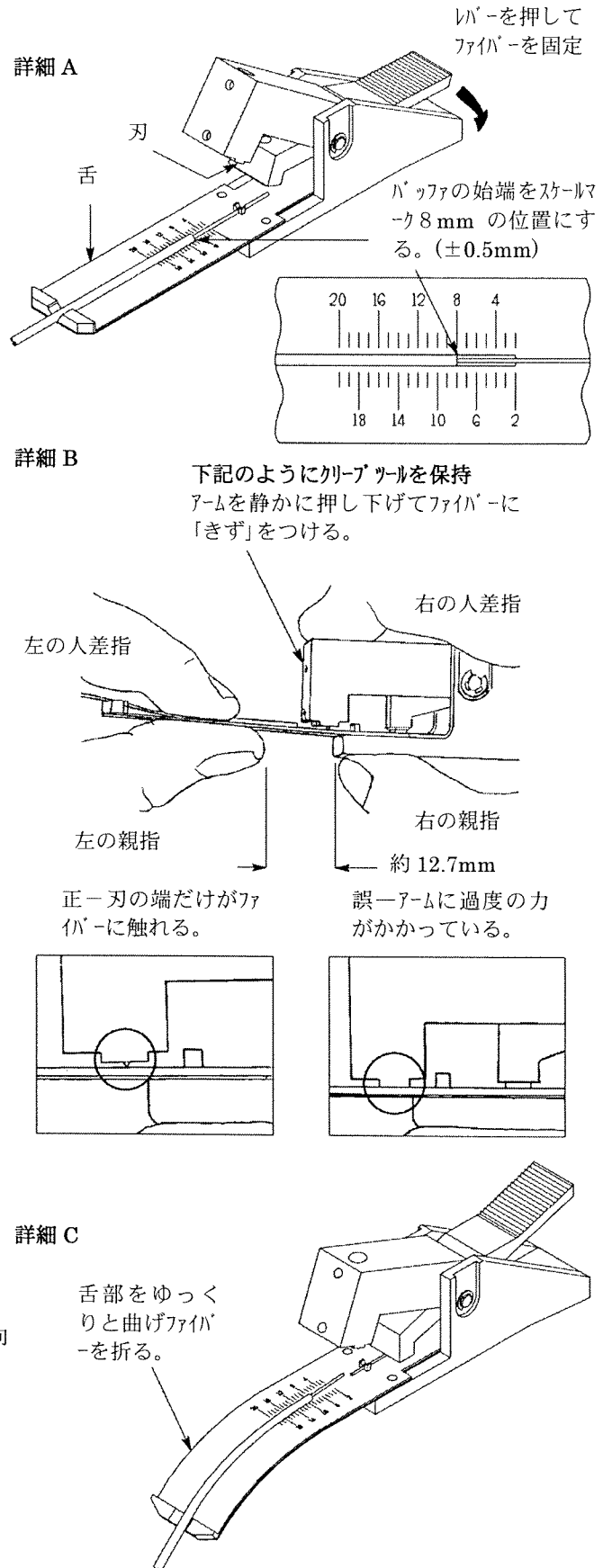
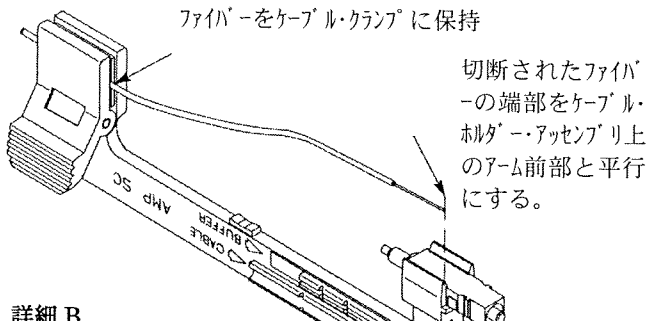
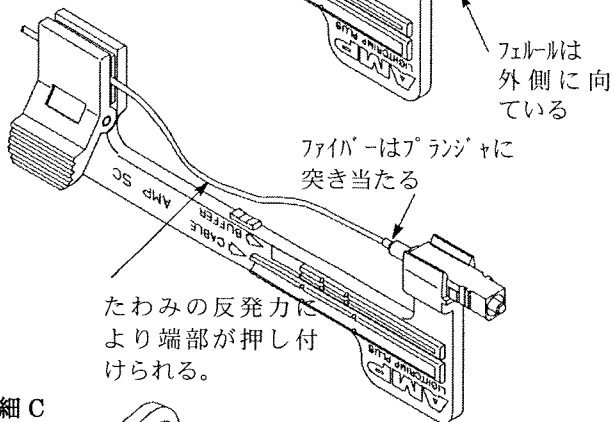


Fig.14 : 圧着

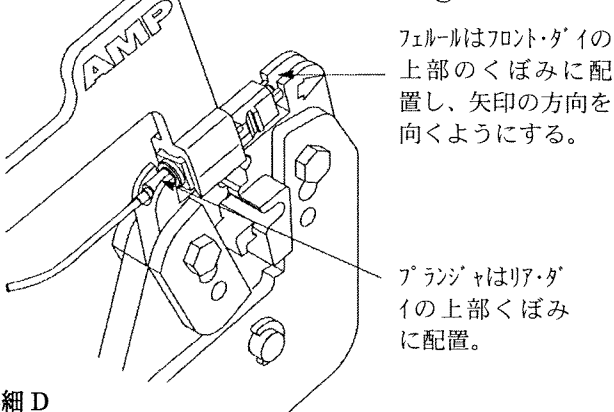
詳細 A



詳細 B



詳細 C



詳細 D

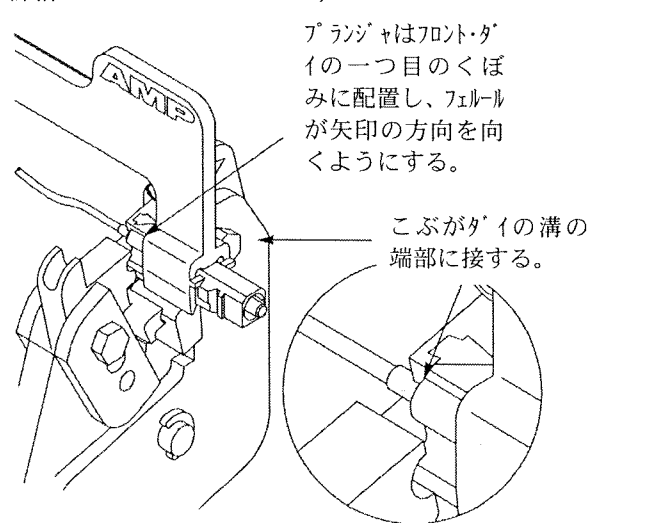
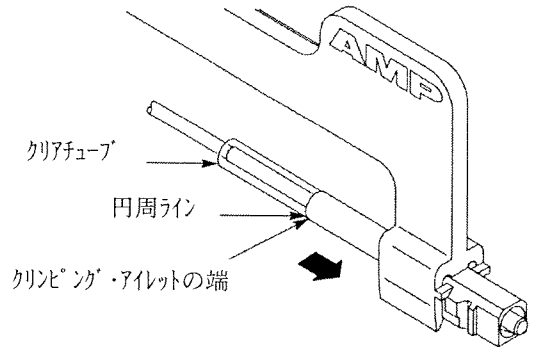
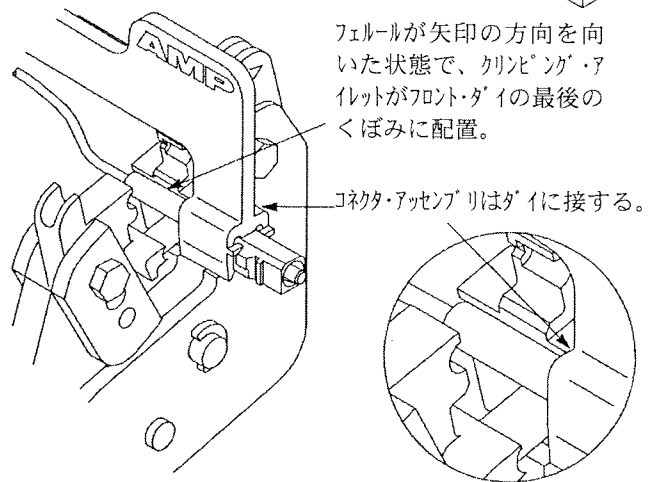


Fig.15 : 圧着

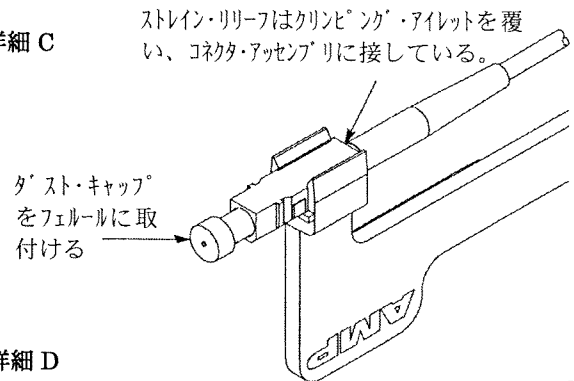
詳細 A



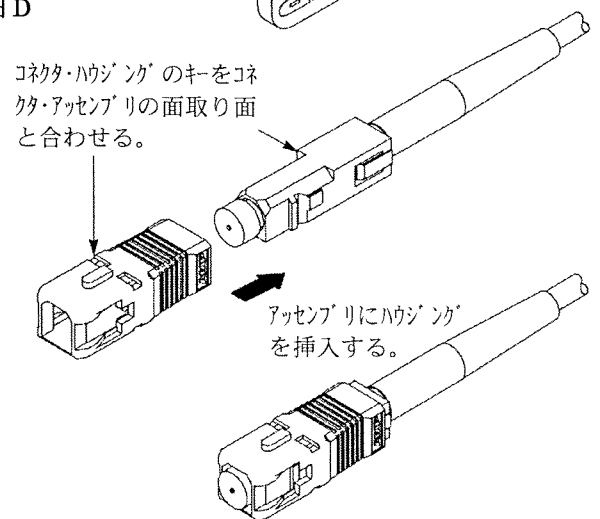
詳細 B



詳細 C



詳細 D



6. 改訂履歴

本指示書は、EC 0990-1558-03 に従い以下の通り改訂されています。

- ・ 第 1 章の修正
- ・ 5.3 項の追加